

平成28年度「手づくり郷土賞」を受賞しました

四万十川自然再生協議会が、国土交通大臣表彰「手づくり郷土賞（一般部門）」に選ばれ、認定証の授与式が平成29年2月16日、四万十市役所にて行われました。

はじめに、平石英正事務局長が、四万十川の自然環境の保全・再生と地域活性化に向けた、約15年にわたる息の長い取り組みが評価されたことを報告しました。その後、西尾正会長と澤良木庄一副会長に、名波義昭四国地方整備局長から認定証と記念の盾が贈られ、名波局長と中平正宏四万十市長から祝辞を頂きました。

最後に、謝辞として松本公夫副会長が「国土交通省や四万十市と協働連携して取り組んできた。この賞を励みにさらに活動の輪を広げ、地域の皆様と一体となって頑張りたい」と今後に向けての決意の言葉を述べました。



認定証の授与



共に汗を流したメンバーと記念撮影

四万十川自然再生協議会 第15回総会

平成29年2月25日 ● 四万十市防災センター

会員以外でも参加できる記念講演では、高知県立牧野植物園の前田綾子氏が、ヨシスキなど高知県の外来植物について紹介しました。「四万十川の身近な自然や元々の風景を理解し、その自然がおかしくなった時にすぐに声を上げられる人がいることが重要」と述べられ、再生協の役割を改めて認識できました。

続く総会では、次年度の活動計画の承認など通常の議事に加え、役員交代がありました。協議会の設立以来、会長、副会長を務めてこられた西尾正氏と澤良木庄一氏が退任され、新会長に副会長であった松本公夫氏が選出されました。なお、西尾氏と澤良木氏には、引き続き「顧問」として活動に協力頂けることとなっています。



退任のごあいさつ



元会長
西尾 正氏

やっと肩の荷がおりました(笑)。会員の皆様には、私のわからないこと全てを援助して頂き、本当に助かりました。ここまで来られたこと、皆様の御協力に感謝申し上げます。松本新会長を中心に、再生協が益々発展することを願っています。



元副会長
澤良木 庄一氏

再生協は国土交通省の事業等に市民の目線で意見・提案していくなど、他の団体とはひと味違った面白い団体です。私は河道内の植生管理の面から助言等をしてきましたが、自分自身にとっても大変勉強になりました。長い間、ありがとうございました。



松本 公夫氏

会長就任にあたって

66団体、約1,800人(加盟団体の会員の合計数)の大所帯、そして伝統ある会の会長の務めに少々不安もありますが、事務局や役員会を中心に、国土交通省とも連携しながら一つ一つ取り組みをこなしていければと思います。御指導、御協力のほど、よろしくお願い致します。

四万十川自然再生協議会 通信

20号

発行日 ● 平成29年3月24日
発行 ● 四万十川自然再生協議会(略称:再生協)
四万十川自然再生協議会ホームページ
<http://shimanto-saisei.com/>



初崎堤防事業箇所 樹木移植方法等の 勉強会を開催!

四万十川自然再生協議会は、住民の目線から川づくりの提案などを行っています。平成28年10月19日には、四万十川初崎箇所の堤防事業について、川の景観や環境保全という観点から勉強会を開催しました。

座学では、国土交通省から、事業の全体像や堤防の構造に加え、巨大なタブノキの古木を含む河岸林の保全や、移植可能な樹木を別の場所に仮移植して工事後に堤防周辺に戻すなどの配慮について説明を受けました。

これに対し、植物の専門家である澤良木庄一副会長が、初崎の環境や景観の保全に際して、タブノキだけでなく河岸林を構成している他の樹木もあわせて保全することの重要性や、工事や移植の際の樹木の扱いに関する注意点について意見を述べました。

また、地元で造園業を営む池田道一氏から、移植後に木が健全に育つためには、元気な木の選定や、「根回し」と呼ばれる根の処置が重要であることなどが紹介されました。

その後、事業予定地と仮移植の候補地に移動して、意見交換を行いました。



現地での意見交換



澤良木氏から植生の特徴について説明を受ける参加者



座学



池田氏による
移植方法に関する説明



地区のシンボルとなっているタブノキの巨木は保全されます

四万十川自然再生協議会通信に関するお問合せ
国土交通省四国地方整備局中村河川国道事務所 計画課

高知県四万十市右山2033-14
tel: 0880-34-7306 fax: 0880-34-1395 e-mail: skr-nakama40@mliit.go.jp